
めいど・The Liner

陸攻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

めいど・The Liner

【Nコード】

N0840BA

【作者名】

陸攻

【あらすじ】

俺は現実主義者である。 妄想や空想などの二次元は認めないというのが俺の信念であり、ポリシーだった。

……………しかし、運命というモノは時に奇妙。

俺は何処からか知らず知らずに変わり始める……………のか？

0 序の一文（前書き）

新たな年が始まったので……

0 序の一文

よく、『昼寝をしていたら異世界に居た』だとか『何かを開けたり使ったりしたらナニカが出てきた』みたいな感じに始まる物語があるだろ？

まあ、人によっては違うと思うが……俺が思うテンプレートはそんな感じな物語だ。

……しかし、あれってどうなんだろうな？

まあ、あれっていうので異世界は異世界で何もかもが違う訳だし、言わずがしいろいろな弊害があるのは分かるだろう。あと、ナニカが出てきたと言ったら……うん、そりゃあ、もう大変。適当すぎる？

いや、まあ……ね。

何が言いたいのかと言えば、俺は現実的にそうゆう事を望まないし、遭遇したくもないのだ。

まあ、そのせいで俺に誰かが『夢が無い』だとか『現実主義者』だとか言ってたけど、普通に考えて現実主義の方が変な考えを持つより後々楽だろ？

想像は所詮妄想。 空想に過ぎない。

たかが二次元。 俺が今存在する三次元などに当て嵌まる訳が無い。

いつまでも空想に浸ってないでもっと、現実を見ろよ。

……なんて、俺は言っていた。

「ちょっと、ルイエ。 手伝っ……おい」

「あれ、マスター。 どうしたんです？」

「お前、な………」

……そんな事を思っていた事もあった。

「この服のスタイルはどうです？」

「……とっても露出が多いです」

「簡単な感想をありがとうございます」

……ん、ああ。

そう思っていた時がホントにあったんだ。

「てか、ルイエ。ちょっと手伝って欲しい事があるんだが……」
しかし、今はもうそんな事を思いやしない。

だって……

「あれ？ もしや……」

今、そこに俺の考えを90度変えた彼女が居るのだから……

「○○○な事をするんですね。 相変わらずマスターはへんた
「ちげえ!!」」

前言撤回。
誰かそのメイドをどうにかしろ。

~~~~~

……さて、ひとまず目の前の『馬鹿』メイドを鎮圧させたところで自己紹介をしようか。

俺の名前は緑川衛。

現在は高校一年で一応、まだ現実主義者である。  
90度考え方が変わっても考え方の根本は変わらない。

というこれが俺である。

……まあ、余計に語らなければこんな感じか？

「馬鹿とは何ですか！？」 私は首席だったんですよ！！

それなのに、それなのにいいいい！！

ああああああ！！」

その『馬鹿』と言う言葉が頭的（頭腦的）な意味ではないことをさ  
っさと気が付け。

この、『馬鹿』メイド。

……んで、今露出が激しいメイド服を着て、部屋のフローリングの  
上をごろごろと転がっている銀髪の少女はルイエ・エミリーと言い、  
元はこの世界の住人ではない。  
ではない。

大事な事だから二度も言わせて貰ったが、ルイエは何処の世界の住  
人なのかは探った事がないから分からないのだが……確実にこの世  
界の住人ではないのだ。

だって、アイツは一応『魔法』みたいなモノが使えるしな。

滅多に使わないけれども、これが一応使えるんだな。

手から火を出したり目からビー……いや、何でもない。

まあ、年齢は……女性に対してのタブーだから聞かないほうが良いだろう。

……ちなみにヒントを言えば、こっちの年齢から考えればルイエはB  
B「あ、手が滑っちゃいました」

タ、タタタタタ……

しゃっ、シャープペンソー……

……いや、それも女性に対してのタ、タブーであるから、聞かない  
ほうが、聞かないほうが良い。

「ど、どうした!？」

「いや、何か嫌な電波を受信したので」

感ずかれるとは思っていなかったが、嫌な電波ってなんだよ？

………だが、しかし。



「……ルイエ」

「なんでしょうか？」

「P○D外れてるぞ…」

「えっ？」

ここに、見事なポロリがあつ「へ、へえ…へんたあああいい!!」

「ちょっと待って、ちょっと待って!! 俺のせいじゃねえ!

おい、おい…… ちよつと待ってえええ!!」

………

数十秒後、そこには部屋を片付けに走り回るメイドと部屋の角で伸びている少年が居たらしい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0840ba/>

---

めいど・The Liner

2012年1月1日23時53分発行